インドラマユ県ムカルサリ村の
石炭火力発電所・拡張計画によって
影響を受ける住民の懸念

WALHI（インドネシア環境フォーラム）西ジャワ
政策提言・キャンペーン担当スタッフ
ワヒュディン

・既存の石炭火力発電所
（330メガワット × 3基）は
2011年から運転開始
（2010年に試運転）
・発電所の位置は、インドラマユ県
スクラ郡スムラドゥム村

・発電所の拡張計画の位置は、
インドラマユ県パトロール郡
ムカルサリ村
・発電設備容量の規模は
1,000メガワット × 2基

住民の生計手段への影響

インドラマユ
石炭火力

先祖代々、現地で生活を営んできた漁業者と小農家／農業労働者によれば・・・

・既存の石炭火力発電所によって、自分たちの生計手段は
甚大な影響を受けた。
＝ 既存の発電所ができる前、農家も漁業者も不満はなく、
生活はうまくいっていた。
＝ 既存の発電所が稼働して以降、漁場が汚染され、漁業者は
しばしば魚類を見つけるのが困難になった。そのため、
漁業者はより遠くまで漁に出なくてはならなくなり、
ディーゼル燃料費もかさむようになった。漁獲量は30～40%ほど落ち込んだ。
＝農家も、作物の質が劇的に落ちたり、
多くの害虫の発生により収穫が落ち、苦しむようになった。
収穫量は20～35%ほど落ち込んだ。
＝日雇い農業労働者も、農地が少なくなったため、労働の機会が少なくなった。

環境への影響

既存の発電所による大気汚染と海洋汚染

・既存の発電所の煙突から排出されるフライアッシュ ～ 健康への影響
　＝ 周辺住民の大気質に影響
　＝ 特に、テガルタマン村やウジュングバン村の住民は、
　　呼吸器系疾患に悩まされている
　　（WALHI西ジャワは、テガルタマン村で調査を実施）

・既存の発電所による作物や生態系への影響
　＝ 多くのココヤシが枯れる
　＝ 漁業者「海洋に温排水が流される」「停泊中の石炭運搬船から
　　石炭の粉塵が周囲に飛散し、海中のサンゴ礁に被害」

→ インドラマユ県環境局も公聴会で汚染を認めた
　「既存の発電所が環境汚染を引き起こしているのは事実」
　「高い技術の環境汚染対策を用いていない」

ムカルサリ村での
発電所・拡張計画への住民の反対

- 住民ネットワーク JATAYU（Jaringan Tanpa Asap Batubara Indramayu：インドラマユから石炭の煙をなくすためのネットワーク）

  = インドラマユ県パトロール郡を中心に2015年に設立

- ムカルサリ村の住民は、実際には2010年以降、テガルタマン村やウジュングバン村、スムラドゥム村の住民と共に、既存の発電所の建設に反対の声をあげてきた。
- ムカルサリ村（4つの地区で構成）の住民は、既存の発電所の影響をすでに受けてきた経験から、発電所・拡張計画に反対してきた。
- 発電所・拡張計画に関するインドネシア政府側による住民協議や許認可の取得プロセスにおいて、住民参加は一切なかった。

  → 住民の反対理由の一つ

発電所・拡張計画の許認可を取消すよう求める住民訴訟

- 2017年7月、住民はバンドン地方行政裁判所で訴訟を開始
  → 住民は、発電所・拡張計画に関する当局の情報公開がなく、
  また、住民参加もまったくなかったことから、環境許認可の取消しを求めた。
  → 環境許認可は、西ジャワ州知事が発行するものであるため、
  インドラマユ県知事が発行した同拡張計画の環境許認可は法的瑕疵がある。

- 2017年12月7日、バンドン地方行政裁判所の判決＝住民勝訴
  → 判決の根拠 ＝ インドラマユ県知事に環境許認可を発行する権限はない
  （西ジャワ州知事に権限あり）

発電所・拡張計画に反対の声をあげる住民の取組み

発電所・拡張計画
アクセス道路予定地への
重機搬入に抗議する住民ら

発電所・拡張計画の
許認可取消しを求め、
バンドン地裁前に集まる住民ら

インドネシア汚職撲滅委員会や
インドラマユ県議会前での抗議

インドネシア政府や日本政府に声を届ける提言活動

・インドネシア政府にも発電所・拡張計画への反対の声を届けてきた

・インドネシア国家人権委員会を訪問し、声をあげる住民の法的保護を求めた

・日本も訪問し、日本政府が国際協力機構（JICA）を通じて発電所・拡張計画の建設に融資を行なわないよう求めた

社会影響

新しい発電所の建設はコミュニティーへの
社会影響を引き起こしている：

1. 住民間の摩擦
2. 建設に反対の声をあげる住民への脅迫
3. 反対する住民の声の抑えつけ
4. 冤罪（でっちあげの罪状で逮捕・勾留・収監）

冤罪
（でっちあげの罪状で逮捕・勾留・収監）

・2017年12月にムカルサリ村プロクントゥル地区の住民3名が、紅白の国旗を逆さまに掲げたという「でっちあげ」の罪状で逮捕
・一度は釈放されたものの、2018年9月に再び同じ罪状で逮捕
・「国旗侮辱罪」で5ヶ月と1週間の実刑判決で収監

4名の住民が暴力をふるったとして、6ヶ月収監

・国旗侮辱罪のケースとは別に、4名の他の住民もでっちあげの罪状で収監

・発電所・拡張計画のアクセス道路の工事現場で抗議をしていた住民らが、建設請負業者から暴力行為を受けたことで暴力沙汰に巻き込まれる形に

提言と呼びかけ

日本政府への提言

- 発電所・拡張計画は、住民が生活の糧を失ったり、冤罪などの社会影響を受けたりするなど、コミュニティーや環境に被害をもたらす。新しい発電所の建設に関連するインドネシア政府への融資供与やあらゆる形態の協力を再考するよう、日本政府に求めたい。
- 首相や国会議員を含め、日本政府はJICAに対し、発電所・拡張計画の建設のためにインドネシア政府への融資支援を継続しないよう伝えてほしい。

日本の皆さんへの呼びかけ

- 発電所の影響を受けるコミュニティーとインドネシアのNGOネットワークは、日本政府とインドネシア政府間でのJICAを通じた融資協力が行なわれることがないよう、私たちの取組みへの日本の皆さんの支援をお願いしたい。
- 発電所の建設を止めるため、日本社会のあらゆる層の皆さんに支援をお願いしたい。
- 私たちの思いと願いを日本政府とより広範な日本市民の方々に届けてほしい。

Terima Kasih
ありがとうございました

石炭火力発電所の建設に抗議する！
「Dirty Energyに対する融資供与の停止を！」